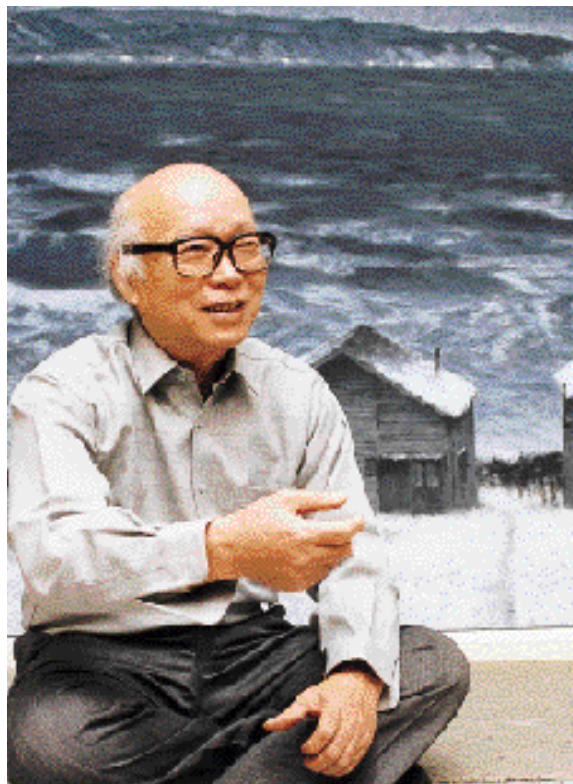




厳寒の風景の中 家いへの窓に灯る明かりは 人びとの生活のぬくもりです

のり お
鈴木至夫さん
(日本画家)



HITO

荒涼とした凍てつく北の大地、重苦しいまでの空と海。そんな風景の中に、ぼつねんと灯された明かりが人の営みや温かさを感じさせてくれる。今回はそんな風景を描き続ける。院展での入選を重ね、日本美術院特待でもいらつしやる人間川にお住まいの鈴木至夫さんをご紹介します。

鈴木さんは小学校3年生の時の恩師の影響で絵に興味を持ち、東京芸術大学日本画科へ入学。本日は油絵志望だったそうですが、次第に日本画への意欲も芽生え、芸大卒業の年の秋に院展に初めて出品した作品で初入選を果たしました。高校の美術教師をしながらの快挙です。

「北海暮雪（冬の昆布小屋）」平成12年再興第85回院展に入選の大作の前で、人の踏み込まない場所を求め、湖に張った氷を踏み抜いて水の中へ落ちた経験などを語る鈴木さん。

の温かい人柄をも表し、高い評価を得て院展での入選を重ねました。

その後、鈴木さんに大きな転機が訪れます。いつまでも家族像にこだわっているのは疑問だ。いままでの画風をぶっ壊すくらいのつもりで風景画を描いてみなさい。と芸大時代の恩師から半ば強制的な助言があったのです。昭和38年、33歳の年でした。最初は京都や奈良などの風景や高度経済成長の時代の中で取り残されている風景を主題に描いていたものの、「単に風景の中に人物を描くのではなく、温かい人の営みを表現すること、見る人に温かみを伝えたい。」という思いから、夜景を題材とすることが多くなっていきました。電灯の下にある温かい一家団樂が夜景の中で見事に表現されていきます。家族像を描いて家族への思いを表現すること、風景の中へ一家団樂を描き込むのも鈴木さんにとっては人の温かさを表現したいという気持ちの表れだったのです。さらに鈴木さんは「自分自身を厳しい場所におき、それに打ち勝つこと」によって、絵に現れ、何かしら見方も変わってくるのではないかと。という思いから、厳冬の北に目を向けていきます。降った雪も風に飛ばされてしまつような原野に、しっかりと明かりを灯す灯台



平成6年、第49回春の院展で入選した「雪のノサップ岬」は灯台シリーズの代表作です。(茅ヶ崎市美術館所蔵)

を見たとき、深みのある素晴らしい感じがしたら、灯によせる人の営みや温かさというものの思いが二層確かなものになりました。これは北の大地のはての灯台シリーズをはじめ、雪と氷におおわれた厳寒の風景を描く日本画家という地歩が固まつた時期でもあります。冬の北海道から日本海を中心に、寒々とした風景ながら逆に温かみを感じられる絵は描かれていきます。

最近では日本海以外を題材にすることもありますが、無理に題材を変えていこうとは思いません。意識的に変えたのは恩師からの勧めがあったときだけ。これからどういふものを、どういふ風に描いていくのか私にも分かりません。それは描いているうちに自然に変わってくるものだから。そして、それが本物だと思つていきます。」

鈴木さんの真冬のスケッチは、まだしばらくは続いていくようです。

ガーデニングや 植物管理の疑問を解決してくれる 身近な緑のアドバイザー



これからの季節、緑の相談所のある都市緑化植物園は家族連れなど多くの人で賑わいます。

REPORTER'S EYE



【リポーター】
ついでじしゅうこ
対比地 修子さん(笹井在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがレポートします。

最近ではガーデニングブームですね。私はマンション住まいなので、プランターでいくつかわ木を育てていますが、生活の中に緑があると、何かほっとします。でも手入れが大変でうまく育てられないのは私だけでしょ。うか。今日はそんな時にとても強い味方になってくれる、緑の相談所を訪ねてみました。

緑の相談所は智光山公園の東端、ばら園・花木園・芝生広場などがある都市緑化植物園の中にあり、同園の核といふべき施設です。ここでは訪れる人に園内の紹介を行うだけでなく、植物の育て方や病気になってしまった時にどうしたらよいかなど、の相談に応じています。

「年間で約900件の相談があり

ます。窓口へお越しになるかたは、電話での相談がだいたい半々ですね」とおっしゃるのは施設管理公社の巻田園長。相談内容ではどんなことが多いのですか、とお聞きしたら、育てている植物の管理方法が分からないというのが一番だそうです。

話を聞くと大抵は水のあげ過ぎで根腐れをおこしてしまったというのが原因で、元気がなくなってしまう相談に、くる人が多いのだとか。

私も一つ良いことを教えていただきました。ベランダや部屋で植物を育てていると枯れてしまった時など、鉢の土の処分に困ってしまうのですが、枯れた根などを取り除いて残りの土を黒いビニール袋に入れて日光消毒をすると害虫などがある程度駆除することができて、再利用ができるようになるそうです。私も今度試してみようと思います。

また、最近では園芸店で扱っているものに輸入品種や、ハイオ品種のものが多いので、相談に応じるのにも苦労があるのだとか。でもすぐに分からない場合でもきちんと調べ、改めて教えていただけるそうです。病気などのものは現物を持ち込んで相談するかたもあるようで、電話より実物を見た方が的確なアドバイスができるそうです。緑の相談所へ来られないかたのために、市の南部にあ



資料なども参考に、分かりやすい説明が受けられます。

る赤坂の森公園に臨時相談所を開設して相談を受けることもしているそうです。それから近々のかたは、こちらを利用されてはいかがでしょうか。

相談のほかに、各種講座を開いています。ばらの手入れや、柿の木の剪定法、竹垣の作り方など年間30講座程度行っており、中には、相談内容を反映した講座もあります。人気の講座はリピーターも多く、内容によって参加者の年齢層も幅広いようです。そしてこれからは、参加者に少し費用を負担していただいても参加した成果を持ち帰れるような講座も考えているそうです。

植木の手入れというと定年後の趣味の世界というイメージが少しあったのですが、今回お話を伺って、私も興味のあるものがあつたらぜひ参加してみようと思いました。そして緑があふれる潤いのある生活になったら、とても素敵だなと感じました。

●問い合わせ緑の相談所へ
952・6131